

『COREO-Net. (コレオネット)』 Collaborative Regional OITA High-school Network （大分県 COREハイスクール・ネットワーク）

目的

中山間地域の高校において、生徒の多様な進路実現に向けた教育・支援を可能にするため、習熟度に応じたきめ細かい学習等に係る遠隔授業を実践するとともに、地域との協働によるコンソーシアムを構築し、地域資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化や、地域を深く理解しコミュニティを支える人材育成に資する取組を行う

現状

- 本県では、H17年度からの高校再編で、中山間地域を中心に複数学科を一校に統合した総合選択制高校を設置するなど、生徒の学ぶ環境を整備してきた。
- さらなる少子化により、結果的に地域の小規模校には、地域全域から幅広い学力層の生徒が入学し、同じ教室内、かつ同じペースで学習に取り組む状況にある。
- 地域の高校では、大自然や伝統文化などの恵まれた地域資源を強みとして、H28年度から高校の魅力化を進めているところであり、総合的な探究の時間等において、地元根ざした特色ある教育活動を実践している。
- 小規模校ならではの生徒に寄り添う丁寧な学習指導等により、在校生の満足度は高い一方で、より高度な知識や広範な学習を含んだ、個々に応じた最適なレベルの授業を望む声も生徒から聞かれるなど、限られた教員数で対応することの難しさもある。
- 中山間地域の学校の維持・活性化は、地域の活力創出にもつながることから、これまで以上に、地元の中学生が行きたい、学びたいと思う魅力ある学校づくりを進め、入学者を確保する必要がある。
- 入学者の増加、地域を担う人材の育成、結果として地域の活力創出という好循環を生み出すためにも、中学生が地元の高校に進学しても、安心して個々の進路実現に向かって邁進できるような学校の体制づくりが必要である。

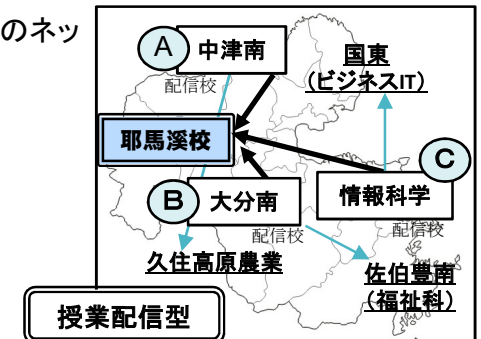
1. 遠隔授業に関する取組の概要

中山間地域の高校4校を受信校とし、都市部の高校3校を配信校とする3つのネットワークタイプを準備し、関係校での連携システムを構築

- 【A: 習熟度別授業配信型】 英語・数学等で習熟度に応じた授業を小規模校に配信
- 【B: 専門科目特化型】 地域人材の育成を目指して福祉系科目を配信
- 【C: 産学連携事業配信型】 企業と連携したSTEAM教育の実践活動を配信

《連携校》

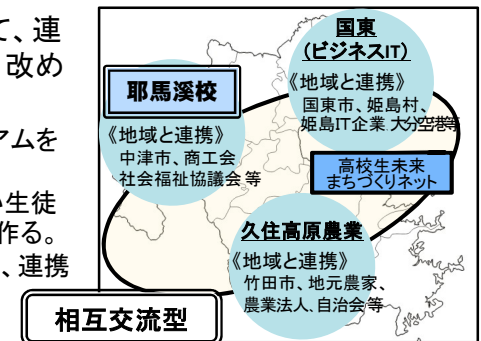
グループ	配信校	受信校
A	中津南	耶馬溪校、久住高原農業
B	大分南	耶馬溪校(生活福祉コース)、佐伯豊南(福祉科)
C	情報科学	耶馬溪校(情報会計コース)、国東(ビジネスITコース)



2. 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

生徒が、学校が所在する「我がまち」のことを、“自分ごと”と捉える機会として、連携校間での情報交換・意見交換の場を設定し、他校の生徒との交流により、改めて地元地域への理解や、持続可能な地域との協働を促進

- 本構想の連携校のうち、受信校4校については、県予算事業を活用したコンソーシアムを立ち上げ(R3からの実施に向け県予算事業措置)
- コンソーシアムを構成する諸機関が、地域人材の育成という観点からも、育成したい生徒の資質・能力の視点を学校と共有した上で、協働して地域の生徒を育てる仕組みを作る。
- 地域資源や地域人材に関する内容を、探究的な学びの教材として活用するとともに、連携校間で、高校生が取り組む地域活性化の実践について意見交換する。
例)「高校生観光サミット」、「わが校・我が町自慢CMバトル」等



3. ネットワークを構成する学校

【受信校】 中津南高校耶馬溪校、久住高原農業高校、国東高校(ビジネスITコース)、佐伯豊南高校(福祉科)

【配信校】 中津南高校、大分南高校、情報科学高校

- 受信校の耶馬溪校、久住高原農業高校、国東高校、佐伯豊南高校は、いずれも、少子化が進む中山間地域に立地する学校であるが、豊かな自然環境などの地域資源や、地元小中学校や地域人材との連携がすでに進んでおり、さらなる学校魅力化が期待される。
- 配信校は、英語・数学等の習熟度別授業を配信する都市部の進学校(中津南)、SPH指定校(大分南)、産学連携によるSTEAM教育の実践校(情報科学)など、特色ある取組が進む学校である。

『COREO-Net. (コレオネット)』 Collaborative Regional OITA High-school Network (大分県 COREハイスクール・ネットワーク)

育成を目指す資質・能力

- 異なる価値観をもつ多くの人々と協働し、得た情報を整理しながら自分の意見を述べる力
- 課題解決に向け、仮説をたて、調査、実践、検証から改善へつなげる探究的な力
- ワンランク上の学習内容に挑戦し、学び続けようとする意志、意欲
- 地域人材の育成や地域の活力増進につながる、地域への理解や愛着、責任感



主なアウトプット(活動目標)

《基本的な考え方》

- 連携校における本事業の効果拡大を図り、遠隔授業の実施科目を拡充
- 中山間地域の高校において地域・学校間の連携及び組織体制構築を推進
- 本事業の成果について、連携校以外への拡大を図るための情報発信に注力

活動指標 1

【COREネットワークの構成校における遠隔授業の実施科目数】

令和2年:0、令和3年:0（実績値）→ 令和4年:8、令和5年:8

活動指標 2

【地元自治体等の関係機関とコンソーシアムを構築している学校数】

令和2年:0、令和3年:4（実績値）→ 令和4年:4、令和5年:4

活動指標 3

【遠隔授業の取組についてメディア等を通じて情報発信した回数】

令和2年:0、令和3年:0（実績値）→ 令和4年:13、令和5年:16

活動指標 4

【県主催の高校魅力化に係る研修会への地域からの参加者数】

令和2年:0、令和3年:0（実績値）→ 令和4年:17、令和5年:21

主なアウトカム(成果目標)

《基本的な考え方》

- 遠隔授業の効果として、受信校における学力向上を図る
- 地域との協働促進と併せ、地域資源等を活用した探究的な学びを推進する

成果目標 1

【学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況】

- ・受信校4校：進路マップ「基礎力診断テスト」（年2回受験）
令和2年：受信校平均値（ゾーン）D2（実績値）
令和3年：C3以上30.1%（実績値）
令和4年：C3以上70%
令和5年：B層5名以上

成果目標 2

【地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目等の数】

- ・総合的な探究の時間を基本として学校設定科目での対応も研究
令和2年：5（うち学校設定科目：1）（実績値）
令和3年：5（うち学校設定科目：1）（実績値）
令和4年：9（うち学校設定科目：4）
令和5年：11（うち学校設定科目：4）

委託期間終了後の見通し

【事業終了を見据えた取組及び終了後のイメージ】

- 県実施の「高校魅力化研修会」等において、本調査研究内容を情報発信するなど、連携校7校以外の中山間地域の高校にも成果を波及
- 中間報告や実施報告をまとめ、研究成果として、各自治体の首長及び市町村教育委員会への情報発信に努め、今後の継続的な連携協力を依頼
- 本調査研究の成果が各校や関係地域に定着するように、地元中学校への高校説明会等を活用し、小規模校として強みにつながるよう広報を工夫
- 地域と学校が「育てたい生徒の資質・能力」を共有し、本事業の成果物としてのコンソーシアムのさらなる機能化を図ることで、地域を担う人材育成を推進